



平成 30 年 9 月版

JA 三重中央 自己改革進捗状況報告書

JA 三重中央では、自己改革計画を核とする中期三カ年計画（平成 29 年度～平成 31 年度）を策定し、JA グループが共通目標として掲げる「農業者所得の増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の実現に向けた様々な取組みを実践するとともに、組合員ニーズにあわせた「農作業支援体制の整備」に取り組んでいます。

組合員の皆様に平成 29 年度の主要な取組項目の進捗状況と平成 30 年度に既に取り組みを実施している項目をご報告します。

J A 綱 領

— わたしたち J A のめざすもの —

わたしたち J A の組合員・役職員は、協同組合運動の基本的な定義・価値・原則（自主、自立、参加、民主的運営、公正、連帯等）に基づき行動します。

そして、地球的視野に立って環境変化を見通し、組織・事業・経営の革新をはかります。さらに、地域・全国・世界の協同組合の仲間と連携し、より民主的で公正な社会の実現に努めます。

このため、わたしたちは次のことを通じ、農業と地域社会に根ざした組織としての社会的役割を誠実に果たします。

わたしたちは、

- 1 地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ろう。
- 1 環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう。
- 1 J A への積極的な参加と連帯によって、協同の成果を実現しよう。
- 1 自主・自立と民主的運営の基本に立ち、J A を健全に経営し信頼を高めよう。
- 1 協同の理念を学び実践を通じて、共に生きがいを追求しよう。

J A 三重中央自己改革進捗状況報告（平成 30 年 9 月）

〈目次〉

	(ページ番号)
基本目標Ⅰ 農業生産の拡大・農業者所得の増大	
1. 米の品質確保と、取引高の維持・拡大に向けた取り組み	3
2. 園芸作物生産量の維持・拡大に向けた取り組み	3
3. 米価上昇のための取り組みによる農業者所得の増大	4
4. ベジマルファクトリーによる農業生産の拡大・農業者所得の増大	5
5. ベジマルファクトリーによる商品開発と販売	6
6. 各支店や各種イベントでの「移動マルシェ」の開催	6
7. GAP（農業生産工程管理）取得に向けた取り組み	6
8. 生産コストの低減に向けた取り組み	7
9. トータル生産コストの低減に向けた取り組み	8
10. 担い手育成の取り組みー営農指導の取り組みー	9
11. 担い手育成の取り組みーアグリサポートだいちの取り組みー	9
12. 野菜塾「みらい」の開催	9
13. 農業メインバンクの機能強化	9
14. J A 総合ポイント制度を活用した農産物直売所の販売強化	10
15. 管内農産物・加工品の P R を強化する取り組み	10
基本目標Ⅱ 農家への農作業支援体制の整備	
1. アグリサポートだいちによる農作業支援	11
2. 農作業支援センターによる支援体制の構築	11
3. 農機課の農作業支援	12
基本目標Ⅲ 元気な地域づくり	
1. 農業への理解促進と新たな J A ファンづくりを目的とした食農教育活動の展開	13
2. 地域ふれあい活動の実践	14
3. 住み慣れた地域での支え合い・助け合い活動の実践	14
4. 支店ふれあい委員会の設置	15
5. 地域に根ざした拠点と総合事業を活かした地域インフラ機能の発揮	15
基本目標Ⅳ 環境変化を踏まえた組織経営基盤の強化の実現	
1. 組合員の維持・拡大に向けた取り組み	16
2. 組合員アンケートの実施によるニーズの把握と組織・事業運営への反映	17
3. 地区別座談会の開催	17
4. 組合員の気持ちに寄り添った人財の育成への取り組み	17
5. J A の事業・活動の伝達活動の強化	18
6. 改正農協法に対応した理事の選出	18
J A 三重中央 合併 30 周年農業支援事業	19
あなたも J A 女性組織と一緒に活動してみませんか？	21

JA三重中央自己改革進捗状況報告書

JA三重中央では自己改革計画を盛り込んだ中期経営計画（平成29年度から平成31年度まで）に基づき、農業振興・地域振興を着実に実践するJAの自己改革を進めています。

これまでの進捗状況と取組成果についてご報告いたします。

基本目標Ⅰ 農業生産の拡大・農業者所得の増大の実現

自己改革の基本目標である「農業生産の拡大・農業者所得の増大」の実現及び三重県の特徴である「多彩な農業」の維持・拡大を描くとともに、担い手経営体・中核的担い手・多様な担い手それぞれのニーズに応じた支援策を明確にし、着実に実践します。

1. 米の品質確保と、取扱高の維持・拡大に向けた取り組み

農業生産の拡大



圃場巡回の様子

平成30年産米から政府の生産調整が廃止となるなか、良質米生産に向けて、地域普及センターと連携し、圃場巡回による相談機能の充実化【土作り・施肥・植え付け・水管理・収穫・病害虫防除・品種導入】を行いました。特に、近年の地球温暖化進行に伴う、米の「高温登熟障害」を回避するため、高温耐性品種の導入にも取り組みました。

その甲斐あって、29年産米については、登熟期の高温と日照不足により、県下の1等米比率37.6%に対して管内比率は47.4%と県下平均を上回りました。

また、需要動向に沿った水田活用米穀【加工用米・備蓄米・輸出用米・米粉用米・飼料用米】の取り組みにより、取扱俵数の維持・拡大も行いました。

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度計画
取扱俵数	44,151 俵	48,726 俵	41,851 俵	45,000 俵
1等米比率(当JA)	63.8%	71.6%	47.4%	50.0%
1等米比率(三重県)	47.9%	65.4%	37.6%	—

2. 園芸作物生産量の維持・拡大に向けた取り組み

農業生産の拡大



キャベツ目揃え会

JA三重中央では管内の主要3品目であるキャベツ・ブロッコリー・なばなの作付体系と栽培品種の見直しを図り、それぞれに新品種を導入し、反収増加と農業者所得増大に向けての取り組みを行っています。またJAグループ三重による助成事業である園芸バリューチェーン構築応援事業を活用し、主要品目の生産拡大に取り組む生産者を支援することで、栽培面積の拡大に努め、園芸作物取扱高の増加に繋がる取り組みを行っています。さらに生産者の所得

向上と加工用キャベツの反収増加のため、加工・業務用野菜生産基盤強化事業（753 事業）に取り組みました。

平成 8 年に竣工した野菜育苗センターにおいて、キャベツ・ブロッコリー・はくさい・なばなの育苗を行い組合員に良質の苗を安定的に供給することにより、地域組合員の野菜作付の維持・拡大に取り組みました。JA が運営する野菜育苗センターは県内でもめずらしく、竣工以来多くの組合員の農業経営を支えています。

項目	品目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 計画
園芸事業バリュー チェーン構築応援 事業を活用した生 産面積の拡大面 積	キャベツ	—	15.7 ha	8.9 ha	4.0 ha
	ブロッコリー	—	3.2 ha	2.6 ha	0.7 ha
	はくさい	—	1.7 ha	3.9 ha	0.2 ha
	なばな	—	1.4 ha	0.2 ha	—
	合計の累計	—	22.0 ha	37.6 ha	42.5 ha
加工用キャベツの生産振興 (ベジマルファクトリー出荷契約 面積)		16.5 ha	20.1 ha	25.0 ha	26.0 ha
加工・業務用野菜生産基盤強化 事業(753 事業) 取組面積		6.60 ha	7.39 ha	7.39 ha	7.39 ha
加工・業務用野菜生産基盤強化 事業 農家数		7 件	11 件	11 件	11 件
野菜育苗センター 供給枚数		28,449 枚	27,599 枚	26,963 枚	30,000 枚

3. 米価上昇のための取り組みによる農業者所得の増大

～ 小売りなどの実需者との取引の拡大 ～

販売力強化



近年のお米需要はコンビニ・中食・外食産業を中心に業務用米が堅調に推移しております。この実需者と結びついた安定的な販路を確保するために、業務用多収性品種「ほしじるし」と「関東 268 号」の取り組みにより販路確保に取り組みました。

また、農業者の所得増大に向けて、JA 独自の直接販売を行い有利販売に繋げ、最終精算の手取り確保に努めました。

共同計算精算金額	平成 26 年産	平成 27 年産	平成 28 年産	平成 29 年産
コシヒカリ 1 等 (JA 米・確約契約米) 税込・円/60kg	10,518 円	12,070 円	12,810 円	未確定

品種	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
ほしじるし生産面積 (ha)	0.3	0.8	8.9
関東 268 号生産面積 (ha)	—	—	1.4

4. ベジマルファクトリーによる農業生産の拡大・農業者所得の増大 ～ 農産物の加工による6次産業化への取り組み ～

農業生産の拡大・農業者所得の増大



当組合では平成18年にベジマルファクトリー（カット野菜工場）を設立しました。ベジマルファクトリーはベジマルファクトリー生産グループからキャベツ・玉ねぎを加工用野菜として契約価格で仕入れ、カット野菜として加工し販売しています。管内産を中心としたキャベツ・玉ねぎ等の野菜を製品まで加工し、製造コストや中間マージンを抑えることで、安定した販売価格を可能にしています。カット野菜は中部地方から関西地方まで、量販店を中心に直接販売しています。

ベジマルファクトリーでは販売高を増加させて利益の一部をベジマルファクトリー生産グループのキャベツ出荷量に対し、年度末に追加の支払いを行っています。平成30年度は合併30周年農業支援事業として、ベジマルファクトリーへのすべての出荷者に対して追加支払いを行います。

またカット野菜として販売するだけでなく、市場を通さずに管内野菜を直接量販店等との買付単価・出荷量を設定し販売する取り組みも実施しており、ベジマルファクトリー生産グループ生産者の所得増大を目指しています。

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度 計画
カット野菜の直接販売 (千円)	1,175,075	1,223,039	1,180,408	1,194,000
ベジマルファクトリー生産 グループによる加工用野菜 の出荷重量(kg)	1,494,293	1,357,965	977,553	1,500,000
ベジマルファクトリー生産 グループキャベツ契約農家 への追加払い金額(円)	1,427,778	1,486,681	1,870,194	5,000,000
ベジマルファクトリー生産 グループへの キャベツ買付販売(ケース)	53,327	53,198	33,321	50,000

5. ベジマルファクトリーによる商品開発と販売

販売力強化



ベジマルファクトリーではドレッシングメーカーや容器メーカーなどと、消費トレンドに合わせた商品開発を随時行っています。パッケージサラダやカップサラダのほかに「スチーム温野菜」「スープ野菜」など新しい商品を開発することで販売金額を増加させ、生産グループの所得増大に繋げています。

またキャベツやマコモタケなどを使用した「しんちゃんギョーザ」「まこもシュウマイ」などの農産加工品を開発・販売を行い、地域の農産物の販路拡大に努めています。

項目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 計画
農産加工品販売高(千円)	21,724	19,966	17,423	20,000

6. 各支店や各種イベントでの「移動マルシェ」の開催

販売力強化



地域の活性化とふれあいマーケットの会会員の所得増大を目的に、平成 29 年度より新しい取り組みとして「移動マルシェ」を開催しています。平成 29 年度については年間で 37 回開催し、販売金額は 173 万円と多くの方にご利用いただきました。平成 30 年度は開催 150 回・販売金額 750 万円を目標に設定し、さらに多くの支店等で開催することで農業生産拡大と農業者所得向上に繋げていきます。

7. GAP（農業生産工程管理）取得に向けた取り組み

販売力強化

2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会への食材提供等を契機に、食の安全確保に対する関心は高まっていくことが想定されます。これらの状況を踏まえ、当管内の美杉地域では、食の安全、環境保全等への関心に応えようと、美杉清流米で県下初の GAP 団体認証取得を目指し、生産者団体・行政・JA が一丸となって需要拡大に繋がる農産物の形成と地域農業発展に向けた積極的な取り組みを行っています。

8. 生産コストの低減に向けた取り組み

コスト低減

～農業生産資材購買事業改革による生産資材価格の引き下げの実現～



予約購買の拡大への取り組みや見積り合わせによる仕入業者の選定、また大型ロットでの早期一括仕入れを行うとともに、全農が取組む「肥料の新たな共同購入運動」に参加し、銘柄集約による集約仕入れを計画的に行うことで、価格交渉を有利に行い安価での安定供給に努めました。

その結果、平成 27 年度と平成 29 年度の予約価格を比較した場合、肥料で約 100 品目、農薬で約 110 品目の予約価格の引下げが実現できました。

例) 平成 30 年産水稻予約注文書

当用価格に対して予約価格の値引き率 肥料：平均 8.8%・農薬：平均 7.3%

例) 平成 30 年度秋冬野菜注文書

当用価格に対して予約価格の値引き率 肥料：平均 11.1% (堆肥・培土除く)・農薬：平均 12.4%



その中でも、当JAの主要品目である野菜肥料「高度園芸化成 682」、野菜殺虫剤「ジュリボフロアブル」、麦肥料「高度化成 14-14-14」、麦除草剤「ボクサー」、大豆除草剤「エコトップP乳剤」、水稻肥料「三重中央コシヒカリ化成」、水稻除草剤「エーワンジャンボ」につきましては、平成 27 年度～平成 30 年度にわたり価格低減をすることができました。

また大口購入者へは、大口価格を設け購入数量に応じて、予約価格より最大で約 3%の値引きを実施しました。さらに、JAオリジナル大型規格品を多数取り扱うことにより、通常より 1 反あたりの生産コストを低減することができました。また、「大豆、麦、水稻、野菜」において省力化資材の提案を行い生産コストの低減に取り組みました。



平成 30 年度からは合併 30 周年農業支援事業において「新規就農園芸用生産資材費用助成（詳細は本紙 20 ページ）」を設定いたしました。就農 3 年目までの新規就農者に対して生産資材の購入費用を助成し、農業経営を支援していきます。

引き下げが実現できた主な銘柄

銘柄名	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 計画
<u>秋冬野菜予約注文書</u> 「高度園芸化成 682」20kg 予約単価（単位：円）	2,365	2,172	2,089	1,970 (▲16.7%)
<u>秋冬野菜予約注文書</u> 「ジュリボフロアブル」250ml 予約単価（単位：円）	6,620	6,480	6,320	6,000 (▲9.3%)
<u>麦資材予約注文書</u> 「高度化成 14-14-14」20kg 予約単価（単位：円）	1,400	1,300	1,280	(※1) 1,270 (▲9.2%)
<u>麦資材予約注文書</u> 「ボクサー」20L 予約単価（単位：円）	52,191	46,740	45,910	45,030 (▲13.7%)
<u>大豆資材予約注文書</u> 「エコトップP乳剤」2L 予約単価（単位：円）	6,100	6,050	5,920	5,690 (▲6.7%)
<u>水稲予約注文書</u> 「三重中央コシヒカリ化成」 20kg 予約単価（単位：円）	2,455	2,035	1,965 (▲20.0%)	(※2) 1,890 (▲23.0%)
<u>水稲予約注文書</u> 「エーワンジャンボ」(3反用) 予約単価（単位：円）	8,595	8,360	8,025 (▲6.6%)	8,000 (▲6.9%)

* 価格の下のパーセンテージは平成 27 年度に比べて何%安くなっているかを示しています。

(※1) 銘柄集約品目につき「化成肥料 444 (国産)」の価格になっています。

(※2) 銘柄集約品目につき「化成肥料 066」の価格になっています。

9. トータル生産コストの低減に向けた取り組み

～ コスト削減と作業の効率化の提案 ～

コスト低減

J A 三重中央では肥料・農薬などの生産資材の予約購買を拡大することでコストの低減を図るだけでなく、省力化資材活用や省力栽培技術を提案することで組合員農家のトータル生産コストの低減を図る取り組みを実施しています。

例えば、ベジマルファクトリーでは出荷者に対して出荷資材（鉄コンテナ）を貸出することで、出荷資材のコスト削減と作業の効率化を実施しています。

項目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 計画
貸出用鉄コンテナ保有数 (単位：基) 貸出増加で保有数も増加	100	100	150	200

10. 担い手育成の取り組み

～ 営農指導の取り組み（営農指導を通じた担い手育成など）～

担い手育成

営農指導員に向け、各連合会等による幅広い研修会が開催されています。研修会の内容には座学研修による基本技術の習得を始め、圃場等での現場実践研修も行われており、習得した内容を各部会に対して情報共有を行い支援に努めています。

また、地域ごとの農業形態に即した取り組みと農業者所得の向上に向けて、各関係団体と連携し、TAC および営農指導員による研修会等の開催や訪問活動の実践をしています。

11. 担い手育成の取り組み

～ アグリサポートだいちの取り組み ～

担い手育成

新規就農者や担い手への人財育成現場として研修生などを受け入れています。地域農業を守っていくための大切な人材となり、現在は研修生を1人受け入れています。

業務の中で、担い手の戦力となるよう、農家へ出向き農作業等を実施しています。

12. 野菜塾「みらい」の開催

担い手育成



野菜塾みらいでの加工トマト播種作業

平成29年10月から未来の農業者を育成するために野菜塾「みらい」を開催しました。野菜塾「みらい」では対象者を農業未経験者や農業初心者とし、野菜作りの楽しさを知ってもらい、農業に興味を持つもの同士の交流を深めます。

第1期については平成29年10月から平成30年9月まで活動し、塾生は18名でした。26歳から70歳と幅広い世代の方が参加されました。種まき、定植、収穫などの栽培管理や、肥料や農薬等の基本的な知識を学び、家庭菜園などで必要な基本的な野菜の栽培技術を学びました。第2期については平成30年9月から1年間活動します。

13. 農業メインバンクの機能強化

J Aバンクでは、農業を取り巻く厳しい環境、農業経営の大規模化の進展等のなか、地域農業を支えていく担い手の確保・育成をサポートし、持続可能な農業を支えていくために、「農業メインバンク」機能強化を最重要テーマとし、新たな施策も含め、J Aバンクの総合力を発揮して取り組みを一層強化しています。

当組合では農業者のニーズに対応するため、平成24年度に金融部に農業融資専任担当者を設置しました。平成28年度からは専任担当者をローンセンターに移し、農業融資メイン強化先を選定し、定例訪問を実施しています。

また平成30年度は農業者のための所得向上および地域の活性化への取り組みに重点を置いた訪問活動を実践するため、「農家訪問日」を設置しました。営農部TACと金融部ローンセンターが連携し、J Aから農家へ情報を発信したり、農家の要望を吸い上げたりできる体制を整え、総合事

業だからこそできることを伝えていきます（平成 29 年度に 3 ヶ月の試験的な取り組みを経て、平成 30 年度に毎月訪問の要領を正式に定め設置）。

項目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 計画
TACとローンセンターの同行訪問（年間）	認定農業者を中心とした訪問件数 400 件	農業融資メイン強化先への訪問件数 800 件	150 件	200 件

14. JA総合ポイント制度を活用した農産物直売所の販売強化

平成 25 年 12 月にJA総合ポイント制度を導入しました。JA総合ポイント制度とは組合員・利用者がJAの各事業を利用した際に、利用度に応じてポイントを付与し、貯まったポイント数に応じて商品券等との交換・購買品の割引等の特典を与える仕組みであり、当JAでは貯まったポイントを産直ひろば・あぐりネット三重中央、ふれあいマーケットいちしで使用できるものとし、農産物直売所の販売力強化に繋げています。

平成 27 年 10 月にはJA事業の利用度に応じて貯まるポイントが多くなるランクアップ制度を導入しました。ランクアップ制度導入の効果により、直売所の来店者が増加するだけでなく、直売所以外のJA事業を複数利用する会員も増加しています。

項目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 計画
JA総合ポイント 会員数（人）	4,337	5,029	5,517	6,400
複数事業利用会員 ：ブロンズステージ 以上の会員数（人）	2,527	2,955	3,306	3,850

15. 管内農産物・加工品のPRを強化する取り組み



平成 30 年度の新しい取り組みとして、所属部署の異なる 20 代の女性職員 6 名で構成し、管内の農産物や加工品をPRするグループ「おもてなし隊」を発足しました。平成 30 年 8 月 7 日には津リージョンプラザで「ひさい梨」を津市長に贈り、PRする活動でデビューしました。

今後、様々な場所で「管内の農産物や加工品」をPRして、農産物の販売増加に繋げていきます。

基本目標Ⅱ 農家への農作業支援体制の整備

人口減少・超高齢化社会の到来により、地域の農業・農地を守る担い手・働き手不足が顕著になっており、三重県の農家数は20年前の半分近くまで減少しています。

JA三重中央では、地域の農業や組合員のくらしを守るために、労働力確保を支援するなどの農作業支援体制の整備を行い、地域の農業を守る活動を実践していきます。

1. アグリサポートだいちによる農作業支援

農作業支援

『JAアグリサポートだいち』はJA三重中央管内の担い手不足や農業生産量減少、耕作放棄地増加などの問題に対応するため平成28年4月に設立しました。『担い手の育成と支援』・『農業生産』・『農作業の支援』を行い、地域の担い手機能の発揮や耕作放棄地を解消することで、農業生産基盤の強化を目指して事業を展開しています。

また『JAアグリサポートだいち』では地域農業をサポートするために、農作業の支援を行っています。支援の内容は、農家への育苗・田植え、防除作業、畦畔等の除草作業、キャベツ苗の定植、防除作業、キャベツ収穫などさまざまな農作業にわたり、農家の作業労力の軽減や労働効率の向上に取り組んでいます。

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度計画
JA・アグリサポートだいち農作業支援引受件数（件）	—	46件	174件	200件

2. 農作業支援センターによる支援体制の構築

農作業支援



近年、農家の高齢化等により、稲作等の農作業の一部委託や農作業の全面委託・経営委託が進行しており、委託者の多くは、農業から離れる、あるいは草刈り程度のかかわり、もしくは自家消費分の生産となっています。

JAでは、農業が従来どおり続けられない農家に対して、農作業・経営の委託先の斡旋などを行い地域農業の維持を図ってきました。しかし、斡旋先の担い手についても受け入れの限界がきており、地域農業・農地の維持が困難となっています。このためJA三重中央では、農業パート等を希望する組合員・地域住民と、労働力確保に苦慮する組合員農家のマッチング支援や調整機能を発揮することで、農業振興に取り組んでいます。

平成 31 年の管内全域での農作業支援体制の構築に向け、平成 30 年 4 月に白山地域をモデル地域として営農センター白山に農作業支援センターを設置しました。農作業支援センターでは、農作業の支援を通じ、農家の作業負担の軽減、作付面積の維持拡大を目指し事業を展開することで、地域の農業振興に取り組みます。また多彩な農業者などへの雇用提供を通じて農業者の所得増加を図り、地域の活性化にも繋げていきます。

(平成 30 年度目標・農作業支援農家軒数・30 軒、延べ日数・135 日)

3. 農機課の農作業支援

農作業支援

農機課ではトラクターや田植機、コンバインなどの大型農業機械をはじめ、草刈機やチェーンソーなどの小型農業機械、小物商品など多種多様な商品の販売、修理を行っています。修理については、便利な出張修理、引き取り納品も実施しています（別途費用が必要となります）。

組合員からのご要望に応じて、平成 28 年度よりトラブルの多い草刈機に対しシーズン前に無料点検会を実施しています。

また農家の生産資材費の中で、最も大きな割合を占める機械費用の削減をはかるべく、持続的な農業経営の支援を目的に、平成 30 年度よりレンタル事業に取り組んでいます。今年度は導入初年度ということもありレンタル回数は 11 回を目標としています。

項目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 計画
草刈機無料点検会による草刈機点検台数	—	61	50	50
農機レンタル回数	—	—	—	11 回

基本目標Ⅲ 元気な地域づくり

人口減少・超高齢化社会が進展し、地域ではくらしに関する様々な課題を抱えています。

J A三重中央では食と農を基軸とした協同組合として、地域に根ざした拠点と総合事業、組合員組織活動というJ Aの強みを活かし、組合員・地域住民の営農とくらしを支え、生活インフラ機能を発揮します。

1. 農業への理解促進と新たなJ Aファンづくりを目的とした食農教育活動の展開



次世代の子どもたちに食と農の大切さを伝えるために、食農教育活動に取り組んでいます。

管内小学生を対象にした「つちっこクラブ」では、年間を通じて種まき・除草作業・収穫などの農業体験を行い、野菜作り、土の感触、収穫の喜び、味覚の発見等を学び「食」と「農」の学習に取り組んでいます。（参加者が多数になりスムーズな運営が困難になったため、平成30年度は家族数を50家族限定）

また「つちっこクラブ」ではJ Aグループの「食と農」の子ども向け月刊誌「ちゃぐりん」を参加者に配布し、楽しく野菜作りや農業を学ぶとともに、夏休みの自由研究にも役立つ情報を提供しています。



管内の小学生を対象に地域の人たちとともに田植えや稲刈り等を体験してもらう農業体験学習も実施しています。地域の担い手の方や一志町歴史語り部の会の会員の方、またJ A三重中央の青壮年部部員の協力で、一志東小学校、一志西小学校、八ツ山小学校、美杉小学校など多くの小学生に昔ながらのコメ作りを体験して頂いています。また美杉小学校にはマコモタケ生産者グループ「八十六石まこもの集い」の指導のもと、マコモタケの植え付け・収穫を体験して頂いています。

ベジマルファクトリーにはたくさんの小学生が社会見学に訪れ、野菜が製品になっていく過程を勉強してもらっています。また職員による「出前授業」も行っています。

項目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 計画
つちっこクラブ参加 家族（家族）	29	61	64	47
農業体験学習参加 生徒数（人）	448	394	430	518
ベジマルファクトリー 視察受入・イベント活 動回数（回）	23	42	39	45

2. 地域ふれあい活動の実践

「地域ふれあい活動」は組合員・地域住民・役職員の三者が参画して行う、地域の元気づくりをめざす支店を拠点とした協同活動であり、地域貢献やボランティアといったCSR活動とは異なる活動です。その活動は、教育文化活動をはじめ、くらしと営農、地域貢献などの幅広い領域を含み、当JAでは小学生を対象とした農業体験やクラフト教室などさまざまな活動を実践しています。支店新聞等の取り組みもこの活動の一環です。

平成30年度においては全支店と営農センター・直売所で支店新聞を発行し、イベント型の活動も増加させていく計画です。

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度 計画
地域ふれあい活動 実践回数(支店新聞除 く)	7回	30回	47回	50回

3. 住み慣れた地域での支え合い・助け合い活動の実践



少子高齢化や家族形態の変化など地域を取り巻く環境が変化する中、組合員宅への訪問機会の多いJA三重中央においても、地域づくりのため、日常業務における個別訪問や支店等への来店の機会を捉え、支店等を拠点とした見守り活動に取り組んでいます。平成29年2月に津市と「高齢者等の見守りに関する協定」を締結し、家庭訪問日などを利用して全職員が見守り活動を実践しています。

助け合い組織かぎぐるまの会は、ボランティア活動としてミニデイサービスやふらっとほ一むを行っています。ミニデイサービスは、地域の75歳以上のお年寄りの方を対象に、協力会員がゲームや体操、季節にあった作品作りなどを指導したり、昼食やおやつを用意したりと、一日を楽しく過ごして頂いています。ふらっとほ一むでは、世代を越えた交流を目的として、恒常的に地域に根ざし好きな時に「ふらっと」参加できる場の提供を行っています。

また「あいけあセンター」では、「住み慣れた場所で最後まで」を目指して、楽しく生活出来る地域づくりのための介護サービスを提供しております。少しでも多くの方に利用していただくため、デイサービスの定員数を18名に増員し、広報誌等に活動行事(誕生会、夏祭り大会、クリスマス会など)を掲載することで、組合員に周知を図っています。地域包括センター主催の会議や行事等に参加し、他の施設関係者や民生委員さんと一緒にお話しさせていただきました。また依頼があり、地域の自治会での公民館活動にも参加させていただき、大変喜んでいただきました。

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度 計画
ふらっとほ一む利用者延べ人数(人)	566	594	559	600
デイサービス定員数(名)	15	18	18	18
デイサービス利用者延べ人数(人)	2,817	3,794	4,077	4,100

4. 支店ふれあい委員会の設置

平成 29 年 10 月から支店ふれあい委員会を設置しました。支店ふれあい委員会とは、各支店管内における組合員の意思反映を行うことにより、組合員と組合との結合強化を図り、支店業務の円滑な運営を通して、組合員の営農とくらしを守ることを目的としています。委員は地区理事をはじめ、総代、組合員組織の代表、青壮年部部員、女性組織連絡協議会会員、さらには准組合員や J A を利用する組合員以外の地域の方も加わり、地域を元気にするための委員会を定期的に開催しています。

委員会では、農業やくらしを元気にするための様々なアイディアや J A の事業運営に関することなどが話し合われています。「地域ふれあい活動」などの支店ごとのイベントについても、委員会で話し合われ、支店独自の「子ども向け農業体験」などの新しい取り組みも増えてきました。

5. 地域に根ざした拠点と総合事業を活かした地域インフラ機能の発揮



J A は、農業者が出資・運営し、自らが必要とする事業の利用を目的とする組織であり、正組合員である農業者の営農と生活を支える総合事業を展開し、あわせて准組合員である地域住民に必要とする生活サービスを提供しています。

J A 三重中央では、各支店を拠点とする協同活動のほか、金融店舗、ファーマーズマーケット、L P ガス事業やガソリンスタンド、介護など広範なサービス展開で地域のライフラインの一翼を担い、地域の活性化を図る活動を展開しています。

平成元年 2 月合併当時の貯金残高 711 億円は平成 30 年 3 月末時点で 1,551 億円となりました。「貯金」という形でお金を預かり、そのお金を原資に組合員・地域住民に貸出を実施するほか、組合員が利用する J A の農業施設の整備等を行っています。

また「ひと・いえ・くるまの総合保障」を提供する「共済事業」は長期共済保有高 4,034 億円、共済事故支払金は長期（生命共済・建物更生共済）と短期（自動車共済など）をあわせて 3,393 件 15 億 6089 万円となり、専門知識を持ったライフアドバイザー（L A）を中心としてサービスを提供し、組合員・地域住民のくらしを守る活動を実践しています。

J A 三重中央は、自己改革計画を着実に実践し、信用事業・共済事業を含む「総合事業」を展開することで生活インフラ機能を担い、また組合員・地域住民のニーズに応じた事業を展開・伸長させることで、地域に貢献していきます。

項目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 計画
貯金残高	1,441 億円	1,562 億円	1,551 億円	1,575 億円
貸出金	372 億円	370 億円	331 億円	300 億円
共済保有高	4,246 億円	4,149 億円	4,034 億円	3,900 億円
長期共済事故支払金	11 億 2,402 万円	10 億 464 万円	10 億 3,117 万円	—
短期共済事故支払金	3 億 9,435 万円	3 億 3,248 万円	5 億 2,972 万円	—

基本目標Ⅳ 環境変化を踏まえた組織経営基盤の強化の実現

全国的にも農業者の減少や高齢化、世代交代に伴う組合員とJAとの関係の希薄化に伴い、JA事業・組織活動の低迷など組織基盤がぜい弱化しています。正組合員が減少し、准組合員が増加するなど組合員構成も大きく変化し、組合員のニーズも多様化してきました。

JA三重中央では、多様化した組合員のニーズを把握し、事業利用の拡大とあわせて、組合員の地域農業と協同組合への理解を深めつつ、意思反映と運営参画を進め、組織基盤の強化を実現させます。

1. 組合員の維持・拡大に向けた取り組み



女性組織メンバーによる組合員加入運動

平成29年度は、正組合員が35人減少の6,327人、准組合員が188人増加の7,255人、組合員合計で153人増加の13,582名となりました。正組合員の減少と准組合員の増加が続いており、組合員構成も大きく変化しています。

JA三重中央では、正組合員を減らさず准組合員を増やすことを基本に、新規就農者を増やす取り組みとして「野菜塾」を開講、またファーマーズマーケット事業の強化に取り組むとともに、信用事業や葬祭・燃料事業などで組合員サービスに取り組みました。

また「女性の声をJA事業に反映する取り組み」として女性組織連絡協議会による組合員加入運動を進めました。この結果、正組合員が43人増加、組合員合計では55人の方が新たに組合員になって頂き、正組合員増加率・増加数ともに県内トップとなり、平成30年5月にJA全国女性組織連絡協議会通常総会にて、JA三重中央女性組織連絡協議会が「JA女性組織メンバーによる組合員加入運動」で優良実績表彰を受けました。

平成30年も引き続き加入運動に取り組み、女性の正組合員や総代の増加を目指し、女性の意見をJA事業に反映させていきます。

なお多様化する農業形態に合わせて、平成30年6月に開催された第30回通常総代会第3号議案「定款の一部変更」の承認、ならびに行政への認可を受けて、平成30年度から正組合員の資格要件を見直し、耕作要件や農業従事日数要件を変更しました。

(これまでの正組合員の耕作要件10アールまたは農業従事日数60日は1アールまたは30日へと変更になりました。)

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度 計画
正組合員数(人)	6,427	6,362	6,327	6,400
(うち女性)	1,222	1,217	1,293	1,330
准組合員数(人)	7,015	7,067	7,255	7,200
(うち女性)	2,383	2,432	2,566	2,610
組合員合計	13,442	13,429	13,582	13,600
(うち女性)	3,605	3,649	3,859	3,940

2. 組合員アンケートの実施によるニーズの把握と組織・事業運営への反映

組合員満足度の向上に向けて、ＪＡ三重中央が行う事業・活動に対する組合員の利用度、ニーズなどを把握するため、平成 28 年 11 月に「ＪＡ三重中央組合員アンケート」を実施しました。正組合員には正組合員独自アンケートも実施し、農地の管理についてＪＡに期待することや販売事業に関して期待することなどのご意見・ご要望を頂きました。頂いた意見等を平成 29 年からの中期三カ年計画に反映させ、「農作業支援体制の整備」などを進めています。

また平成 30 年 2 月には、ＪＡ三重中央の自己改革の取り組みを組合員に伝えるとともに、その評価を聴くために、正・准組合員各 750 名、合計 1,500 名に対するアンケートを実施し、1,403 名の方から回答を頂きました。

なお平成 31 年にも、組合員に対するアンケートを実施する予定です。アンケートの実施の際には組合員の皆さまご協力よろしくお願いします。

3. 地区別座談会の開催

組合員の声をＪＡ運営に反映させるための新たな取り組みとして平成 28 年度より地区別座談会を開催しています。地区別座談会は地区別総代懇談会とは異なり、総代以外にも青壮年部部員や女性組織連絡協議会会員、年金友の会役員や地域の准組合員の皆さまなど様々な方に参加していただいています。平成 29 年は 15 会場で 221 名の方に参加いただき、今後の農業振興や地域振興について話し合われました。頂いたご意見については、事業ごとに内容を検証し、ＪＡの事業運営に反映させていきます。

平成 30 年度の新たな取り組みとして実施した「農作業支援センター（モデル）」「農機レンタル事業」については地区別座談会の意見・ご要望を事業に反映しました。

4. 組合員の気持ちに寄り添った人財の育成への取り組み



平成 30 年度全職員研修会

組合員の世代交代が進むなか、ＪＡ事業・組織活動の低迷など組織基盤がぜい弱化することが予想されます。このためＪＡ役職員が組合員等との関わりを強め、組合員の営農とくらしに寄り添って事業・活動をすすめられるよう、経営理念、経営方針、求められる職員像等を明示した『人財育成基本方針』を平成 30 年 5 月に策定し、この方針に従い中長期的及び総合的な視点で人財育成に取り組んでいきます。

ＪＡ三重中央は組合員の負託、利用者の期待に応えるため、「専門的な知識・技術とともに、組合員・農業・地域をコーディネート（調整）する力と熱意を兼ね備えた職員」の育成を進めています。

5. JAの事業・活動の伝達活動の強化



平成 29 年度地域ふれあい活動表彰
家城支店の支店新聞

准組合員の多くは、ファーマーズマーケットや信用・共済事業など単独の事業を利用しているものの、介護事業や組織活動など知らないことも多いという結果が組合員アンケートで分かりました。このため、平成 28 年度より情報発信を強化することを目的に支店新聞の発行などさまざまな取り組みを実施しています。

支店新聞は、地域で組合員にとって最も身近な存在である支店や営農センター・ファーマーズマーケットなどの事業所ごとに特色のある新聞を発行することで、JAをもっと知ってもらおうという取り組みです。平成 28 年度は 10 店舗で取り組みを開始しました。平成 30 年度は全店舗での発行を目指しています。

また平成 28 年度には携帯電話でも見やすくするためホームページのリニューアルを実施しました。平成 30 年度からは新たにスマートフォンやパソコンで利用できるアプリ「LINE@」の取り組みを開始しました。今後は、准組合員や地域の方にもっとJAを知ってもらうために、新聞折り込みのコミュニティ誌の発行を実施します。

項目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度計画
支店新聞発行店舗数	—	10 店舗	12 店舗	22 店舗

6. 改正農協法に対応した理事の選出

平成 28 年 4 月 1 日に改正農協法が施行され、理事の定数の過半数を「認定農業者」または「実践的能力を有する者」とする理事構成に関する新たな要件が追加されました。

これを受け、当JAでは平成 29 年の役員改選から新たな理事構成要件を準拠する方法で理事を選出しました。現在の執行体制では理事 19 名のうち 18 名が「認定農業者」または「実践的能力を有する者」となっています。

区域	理事人数	「認定農業者」または「実践的能力を有する者」
一志	4 人	4 人
美杉	4 人	4 人
白山	4 人	4 人
久居	4 人	3 人
全域	2 人	2 人
実務精通理事	1 人	1 人
合計	19 人（うち女性 2 名）	18 人（うち女性 2 名）

JA三重中央 合併30周年農業支援事業

NO	企画名	実施内容	助成金額等	条件等
1	平成30年産米 出荷拡大助成	JAへの出荷数量を拡大し、有利販売による農業者所得増大を目指す。 袋単位（30kg）で袋数に対応した金額を助成する。	1,000袋以上 50円/1袋 2,000袋以上 100円/1袋 3,000袋以上 150円/1袋	米1,000袋以上（主食用に限る） （10月末締実績において） 【助成金交付時期 平成30年12月末予定】
2	特定畑作物の転作作物助成	平成30年産以降も需要に応じた米作りの実施が必要であり、米価維持のためにも転作作物の定着化が必要。 そこで、津南地域農業再生協議会から各市町に示された生産数量の目安に従い、転作作物の小麦を作付けされた圃場の地権者に対し700円/10aを助成する。	700円/10aを助成	麦を転作作物として作付けされた圃場の地権者に対し700円/10aを助成する。 但し、経営所得安定対策、水田活用の直接支払交付金対象の小麦であって、振込先については地域協議会の支払方法に順ずる。 【助成金交付時期 平成31年2月末予定】
3	平成30年産 主要野菜出荷拡大助成	JAへの出荷数量を拡大し、有利販売による農業者所得増大を目指す。 出荷単位（DB、FG、PC）で、JAへの出荷数に対応した金額を助成する。 ※30年度各品目出荷数と予算1,000千円を考慮し変更の場合有り。	対象品目・金額 ・キャベツ 5円/1ケース ・ブロッコリー 10円/1ケース ・ナバナ 1円/1FG ・イチゴ 1円/1パック ・キュウリ 10円/1ケース	キャベツは500ケース以上 対象期間：平成30年4月1日～平成31年2月末まで 【助成金交付時期 平成31年3月末予定】
4	直売所 生産拡大助成	直売所会員の出荷拡大を目指す。 当JA直売所で、園芸作物の出荷販売数量の拡大を目的とし、販売額に対し3%を助成する。	平成30年度より、毎事業年度のJA直売所販売金額の3%を助成	①販売金額30万円以上（税別） ②自ら生産した園芸作物を販売する者（加工品、工芸品、生花、切花等は除く） ③ファーマーズ会員で、JA三重中央の組合員であること。 ④インショップの販売金額は含めない 対象期間：1年目 平成30年4月1日～平成31年2月末まで 対象期間：2年目 平成31年3月1日～平成32年2月末まで 対象期間：3年目 平成32年3月1日～平成33年2月末まで 【助成金交付時期 毎年度3月末予定】

NO	企画名	実施内容	助成金額等	条件等
5	管理機購入者支援助成	管理機購入者に対して助成し、高齢者・小規模農家を中心とした家庭菜園等の拡大を目指す。	管理機購入代金の10%を助成	J A三重中央から購入で、原則キャンペーン対象の農機 【助成金交付時期 随時申請後】
6	新規就農園芸用生産資材費用助成	新規就農者に対し農業生産に使用した生産資材購入費用を支援し、園芸作物生産の拡大を目指す。	上限30万円を3年間で助成 平成30年度～32年度の、園芸品目に対し、使用した生産資材代金（肥料・農薬）に対し1/2を助成	平成30年度～32年度、新規に津市の「青年等就農計画認定」を受け、かつ45歳以下であり、J A三重中央の組合員であること 対象期間：1年目 平成30年4月1日～平成31年2月末まで 対象期間：2年目 平成31年3月1日～平成32年2月末まで 対象期間：3年目 平成32年3月1日～平成33年2月末まで 【助成金交付時期 毎年度3月末予定】
7	獣害対策用捕獲用檻寄贈	J Aの獣害対策として、獣捕獲用の檻を津市に寄贈する。 (獣害対策の一環として、津市が既に檻の貸出を行っているが、数に限りがあり不足の状態もある。また、当J Aでは各地区での管理が困難である為、津市に寄贈する。)		大型動物用檻 100,000円×4 小動物用檻用檻 10,000円×8
8	ベジマルファクトリー	合併30周年記念ベジマルファクトリー出荷生産者特別追加払い。出荷生産者全員に対し、平成30年度の実績に応じ年度末に追加払いを行う。	玉ねぎ、チンゲンサイ、白菜 アーリーレッド、カボチャ、大根、小ネギ、青ネギ、人参 5円/kg キャベツ10円/kg、キャベツ753事業 2円/kg ブロッコリー 5円/房 契約販売（キャベツ、白菜、ブロッコリー）10円/ケース	



あなたもJA女性組織で 一緒に活動してみませんか？

出会い・感動・共感等が生まれ、
元気に楽しく組織・地域づくりを実現できます



花と緑の会
ミニ庭園づくり

JA三重中央女性組織連絡協議会では、協同組合員の一員としてJA女性組織の存在意義を再確認し、JAと協力しながら地域に根差した魅力的な活動を行い、新たな仲間を増やし組織の育成、地域の活性化に取り組んでいます。特に若い世代に引き継いでいくためにも、加入・参加しやすい企画や取り組みを勧め、JA女性組織が継続的に活動できる基盤づくり、仲間づくりの和を広げています。



JA女性組織ってなに？

- JAをよりどころとして、食や農、暮らしに関心のある女性が集まって活動する組織です。
- 全国、ほとんどのJAにあり、全国664組織、約59万人のメンバーがいます。
(平成28年10月現在)
- JA三重中央では約1200人の会員が積極的に活動しています。

女性組織加入への「はてな？」を解決！

Q 農家、農業に従事していなくても加入できるの？

A どなたでも、いつでも加入、気軽に参加することができます！ もちろん農業をしていなくても加入できます。

Q 加入したらどんな活動があるの？

A 女性組織では、みんなが明るく心豊かな生活をおくるため、健康、生活、趣味など皆さんの要望で様々な活動を管内の各地区で行っています。今年は太極拳なども始めました!!



♪ おにぎりコンテスト開催！



JA三重中央女性組織連絡協議会 各組織活動の紹介



一志、美杉、白山、久居の
4支部で活躍中!!



手芸クラブ クラフトテープバック

いろんなことに挑戦する
仲間が広がっています!

地域組織

地域に応じた活動、野菜塾、ポカシ作り、グラウンドゴルフ、味噌作り、部員交流会等行い、部員等の親睦、交流を図り「地域の元気づくり」を目指しています。

新鮮で安心・安全な食を
みんなで勉強します

新予約共同 購入委員会

地産地消を進めると共に食の安心、安全の普及の為、各地で食の学習会を開催し、班員の増員と利用拡大に努めています。



一緒に
楽しみましょう



助けあい組織 「かざぐるまの会」

高齢者支援、地域の人々が自由に交わり、楽しめる“ふらっとほーむ”の充実を図ります。毎月、井生、伊勢地、八ツ山、須ヶ瀬、榊原で開催中

毎月22日はにぎにぎデー

親子を対象とした
食農体験学習です



食農体験学習 「つちっこクラブ」



米の消費拡大運動にも
取り組んでいます



部員交流旅行

女性部全体で出かける旅行はみんなでワイワイ盛り上がり、交流を深めます。

JAへの提案

女性協はJAにとって重要なグループ。対話集会でJAの役職員との話し合いの場もあります。



JA三重中央女性組織連絡協議会 会長 服部 洋子



女性組織連絡協議会では女性ならではの活躍できる環境づくりを進めています。

今年度より会長に就任した時、JAには女性の活躍できる場がまだまだ少ないことを痛感しました。

今までの活動は今後も継続して行い、役員・支店長との対話集会の意見を基にJA職員との交流も図り、地域の元気づくりをしていきます。また、これからは担う若い世代・子どもたちには食農教育を通じJAファンづくりにも取り組んでいきます。

今年度は正組合員加入運動をきっかけにJA運営に参画、自分たちの活動の幅を広げ、一人一人がJAと関わり、新たな活躍の場をつくり女性の輝ける場を目指しています。

ぜひ、みなさんも会員になって、地域の元気づくりと一緒に女性パワーで盛り上げていきましょう。

女性協の会員になるとこんないいことが!

- まずは自分のため。メリハリのある生活で自分磨き
- 近場なので気軽に活動に参加できる
- 料理や手芸、地域の情報などを家族にお裾分けできる
- 会場はJAの施設なので会場費は無料
- 仲間とわいわい交流しながら情報交換やストレス解消になる

お仕事や子育てをするママから、退職後時間のある奥様まで、女性協で楽しく自分磨きしませんか?

あなたの自分磨きを応援します! JA女性協会員募集中

年会費などの詳しいお問い合わせは

JA 三重中央くらしの活動課 ☎059-293-6000





大三支店・みやま支店が新しく生まれ変わります
白山北支店 2019年5月27日 OPEN